

## 令和7年度 第1回 東川養護学校 学校運営協議会（8月22日）会議録

### 1. 開会・校長挨拶

- ・社会に開かれた教育課程の実現：学校内だけの考えには限界がある。地域に学校の取り組みを紹介し、忌憚のない意見をいただくことで教育をより良いものにしていきたい。
- ・組織としての学校運営：教員の自己完結型（個別指導）の伝統を脱却し、「チーム東川」として組織で地域と連携し、誇りを持って仕事に取り組む体制を目指す。

### 2. 委員任命

- ・令和9年5月31日までの任期として、大学准教授、福祉事業者、地域企業代表、教育委員会関係者、PTA会長など、多様な分野から委員が任命された。

### 3. 報告・説明事項

#### ①令和7年度 東川養護学校グランドデザインについて（校長より説明）

- ・自走する組織への転換：校長が示す経営方針を土台に、教職員が自ら考え、地域や子供を見て動ける「グランドデザイン」を今年度から導入した。
- ・重点目標：個のニーズに応じた授業力・実践力の向上、多様性への柔軟な対応、外部評価（コミュニティ・スクール）の積極的活用。

#### ②学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の目的と計画（副校長より説明）

目的：地域とパートナーとして共通理解を深め、教育活動の計画・実施に関わっていただく。

年間計画：全3回を予定。第2回は学校評価の中間報告、第3回は次年度経営方針の協議などを行う。

### 4. 本校の教育活動と現状についての協議

- ・生徒数118名、27学級（令和7年8月現在）。旭川市や近隣町から通学。ICTの活用：アプリの活用による血糖値の遠隔把握や、感覚器の苦手さを補う文字起こし機能など、障害を支えるためのテクノロジー活用を推進。
- ・医療的ケアと寄宿舎：看護師（非常勤）による体制整備。寄宿舎での夜間対応や、外部委託（アウトソーシング）の可能性についても言及。

### 5. 協議・諸課題への検討

- ・スクールバスの過密化とトラブル（主幹教諭より説明）：生徒数増加により乗車率が上昇。車内空間の狭まりからトラブルも発生している。ベルトの工夫、間仕切りの設置、ICTを用いた見守りなどの対策を共有。
- ・農福連携の取り組み（教頭より説明）：地元の農園や道の駅での販売業務など、実習を通じた地域貢献と将来の就労に向けた技能育成の実施計画の説明。
- ・猛暑対策（空調設備）（事務長より現状報告）：現在、空調設備が十分でない課題があり、熱中症マニュアルに基づく活動制限などで対応している。継続して予算要望を行う。

## 6. 委員からの主な意見・感想

- ・生成AIなどのテクノロジーを、生徒が「自分でできること」を増やすための補助手段として活用することへの期待。
- ・特別支援教育の専門性を地域全体（小中学校含む）に広め、学校間の垣根を低くしていく必要性について議論。

## 6. 閉会

- ・今後も地域・家庭・学校が一体となり、子供たちに利益がある教育活動を目指すことを確認し、閉会とした。

